

駒場キャンパスの東の端、矢内原公園と梅林に道路をへだてて隣接する五階建ての近代的な建物！これが大学院数理科学研究科です。この研究科は、教養学部（大学一、二年生）から大学院に至るまで、東京大学における数学教育に全面的な責任を負う部局です。前身である理学部数学科は一八八一年に理学部数学物理及び学の教官はそれまで所属していた部局を離れ、現在の形である大学院数理科学研究科を組織することになったのです。これによって、数学の教官全員が現在の場所に集まり、東京大学の数学教育全体を見渡した視点から、教育活動を行なうことが可能になりました。

教育研究の現場から 大学院数理科学研究科

Graduate School of Mathematical Sciences

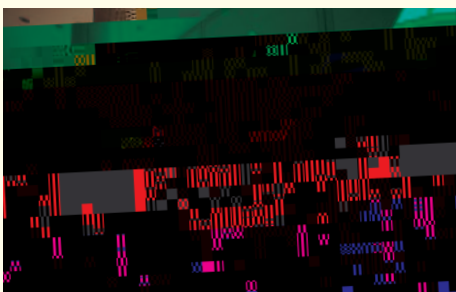
桂 利行

大学院数理科学研究科 副研究科長

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

大学院生の増加に伴って、本研究科が提出した「科
学技術の競争力強化策」が、21世紀COE
プログラムとして採択され、数々の成果を上げて数学・数理科
と努めており、さらなる展開を図るとともに、優秀な

研究者の育成に努めております。社会に開かれた研
究科という観点から、公開講座やオープンキャンパス
など、年中行事として数学の啓蒙活動も行なってい
ます。最先端の数学を国際的に発信するための拠
点としての国際セミナーハウスの新設や、本郷キャン
パスとネットワークで結んで教育効果を高めるため
のセミナー室共有システムの導入等、今後の進展が
期待される斬新な計画も提案されております。
日本の経済発展は高度な科学技術によって支えら
れたものです。政府は科学技術基本計画を打ち出
し



大講義室前のホワイエ

数理科学研究科棟

オープンキャンパスの講義風景

わが国は長年にわたり繰り返し地震や火山噴火の脅威にさらされてきました。大きな被害をもたらした新潟県中越地震をはじめとして紀伊半島沖の地震や浅間山の噴火など地震・火山活動は活発です。

地震研究所は、一九三三年（大正十一年）の関東大震災を契機に、地震・火山現象を専門に研究する東京大学附置の研究所として一九五年（大正十四年）十一月十三日に設立されました。物理学者で地震研究所にも籍をおいた寺田寅彦が創立十周年を機に著した碑文には「本所永遠の使命とする所は地震に関する諸現象の科學的研究と直接又は間接に地震に起因する災害の豫防並に軽減方策の探求とである」とあります。設立当初からのモチベーションは現在もなお変わるところはなく、地震研究所はわが国のみならず、世界の地震学・火山学をリードしてきました。

地震研究所

Earthquake Research Institute

土井 恵治

地震研究所 アウトリーチ推進室

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html>

震や火山噴火の発生のきっかけは何か、など基本的な疑問の解決は、基礎科学としての地震学や火山学の主要な課題であるだけでなく、将来の地震予知・噴火予知のための最優先のテーマでもあります。

地震研究所は、地震活動・地殻変動の観測や地下の構造探査を日本の国内外、陸上・海域とさまざまなフィールドで行い、また、より高精度で厳しい環境に耐えられる観測機器の開発を行っています。これらの観測で得られたデータをもとに現象解明のための理論的・実験的物理モデルの構築やそれに基づいた現象予測のコンピュータシミュレーションなど基礎的な研究を進めています。地震や火山噴火の原動力を解明するために地球深部の仕組みを知ることも重要なテーマです。全世界の観測データを解析することで地球内部の構造がだんだんわかるようになってきました。

■

地震研究所の研究活動

地震火山現象の解明

「地震や火山活動の力の源はなにか」「地震や火山噴火に至るまでに地下ではどのような動きがあるのか」「地

